皆さん新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては平成26年という新しい年をご壮健にてお迎えになられたことと心からお慶び申しあげます。

昨年はそれぞれの立場で住民の皆さんの福祉向上に、そして三芳町の発展に多大なるご尽力をいただき大きな成果を残していただいたことに対し、厚く御礼申し上げます。今年の年末年始の休日は例年になく長く、間が抜けてしまった気がしなくもありませんが、皆様におかれましては有意義でのんびりと家族と過ごすことができたのではないでしょうか。

昨年を振り返りますと新しい政権が発足し、金融政策、経済政策などによって明るい景気回復の兆しが見えてきていますが、なかなか中小の企業や地方では実感が湧かないのが現実だと思います。

昨年は2020年、東京オリンピック、パラリンピック決定という明るい年であったと思います。それでは三芳町はどうかというと、税収がリーマンショック以降回復せず13年ぶりに交付団体となってしまいました。しかし、こうしたことは当初から想定をしており、この三年間は行財政改革を喫緊の課題として取り組んでまいりました。

事業の仕分け、補助金の公募制の導入、住民の皆さんと財政白書をともにつくり、それから新しい行政評価制度あるいは公共施設マネジメントの基本計画を策定しているところでございます。こういったなかで未来の三芳町を見つめ、見据え、住民の皆さんと議論をかわし、コミュニケーションを図りながら様々な施策を行ってまいりました。

少しずつ撒いた種が芽を出し始めているように思います。まさにこの三年間を振り返ってみますと撒いた種が固い地表を打ち破りながら身を屈しながら出始めてきたと感じています。これもひとえに職員の皆さん、また住民の皆さんのご協力を賜った結果だと思っています。そして今年の私の思いというのはすでに広報みよしでは掲載しておりますが「進一歩」、新たに前に進む。そんな気持ちでございます。初心に立ちかえり、チャレンジ精神を忘れず、覚悟を持って一年間まちづくりに邁進していきたいと思います。

そして職員の皆さんには年頭に当たり２点ほどお願いしたいことがございます。

一つ目は、これは一般の企業であっても、また役所であっても職場というのは真剣勝負の場であり、ある意味では戦場である。絶えず状況が変化をするなかで、変化の兆しを読み、また、機を見て機敏に対応することが求められています。
二つ目は、誠心誠意、まことの気持ちを持って仕事に勤しむということです。戦場といっても、お客様や住民の皆さんに勝つということではなく、いかにより良いサービスを提供

し、良い町をつくっていくかという競争と言えます。大切なのは絶えず状況は変わっている、そこに変化の兆しを見て、対応できるか否かが非常に大事だと考えています。

住民の皆さんからクレームや苦情があったとき、当然それを処理することは大事ですが、その背景にどのような経緯などがあったのか、もしかしたらこちらに問題があるのかもしれません。そういったことを想像することが、次の問題を未然に防ぐことができると考えます。

海にいて、海の上に氷のかけらが浮かんでいたとします。それを氷のかけらとして見てしまうのか、水面下に大きな氷の全体像を見て対応するのかしないのか。事故があったとき、もしもそれを見逃していたら、それは天災ではなく人災と言えると思います。
これはとても難しい事ですが、見えないものをみ、聞こえないものをきく、絶えず緊張感を持って、戦場のごとく仕事にいそしむということは非常に大事だと思います。

機をみるの「機」。元は木へんがない「幾」でした。糸が二つ。そして戈があって人と書きます。糸が二つというのは細い。戈と人とは実は人の首のところに糸一本の間近に、戈が迫っている、というものが「機」という意味です。いかに機をみるのが大事かということが分るかと思います。平凡な普通の日々の仕事のなかでもいつも機が迫っていることを意識してほしいと思います。
そして誠心誠意、「まこと」の気持ちをもって仕事に精励する。以前は忠恕という言葉も使わせていただきました。この忠「まこと」ですが、一番最初に出てきているのは中国の易経の中で出てきています。忠「まこと」はどんな字で書くか。爪かんむりというものをご存じでしょうか。妥協の妥の上の部分。爪かんむりの下に子どもの子を書いて、これで孚（まこと）と読みます。爪かんむりは鳥。鳥が卵を抱いている姿が孚（まこと）であると言われています。

鳥というのは木につかまるとき、それからものを捕獲するとき、あるいは敵を威嚇するとき、するどい爪を持っています。これがないと鳥として意味をなしません。卵を産んで、どんなふうに孵化していくのか。卵というのは鳥の種類によって必ず１４日、１５日あるいは数十日と決まっているそうです。

卵を孵化するとき、爪で卵を持つわけですから当然卵が割れてしまいます。どうするかというと羽でしっかりと卵を抱いて温度と湿度と空気を考えながら絶えずゴロゴロ転がしながら孵化をさせます。その母鳥の卵への気持ちが「まこと」とされています。

誠心誠意、孚（まこと）の気持ちを尽くすことで壊れやすい卵からひな鳥が産まれてくる。

これは孚（まこと）のきもちをもっていれば、必ず物事は成就するとも言われています。
ぜひ皆様には職場というのは真剣勝負の戦場であるという認識をもって職務に当たっていただければと思います。

今年一年、なによりも健康にはご留意いただきまして、さらには明るい職場をつくり、それぞれ皆さんが仕事を通して、自分らしく生きられる職場であってほしいと思いますし、仕事に向かっていってほしいと思います。
そして住民の皆さんの福祉の向上、三芳町の発展のために、この一年間ご尽力をしていただきますよう心からお願い申しあげまして年頭のあいさつとさせていただきます。